

海域の概要

本湾は、甕島列島の上甕島と中甕島に挟まれ、東部を甕海峡に開いている湾です。湾奥には中甕港があり、アジ・サバ・イワシなどの水揚げがあります。



中甕浦

Specification

諸元

湾口幅：2.42 km

面積：8.47 km²

湾内最大水深：6.0 m

湾口最大水深：6.0 m

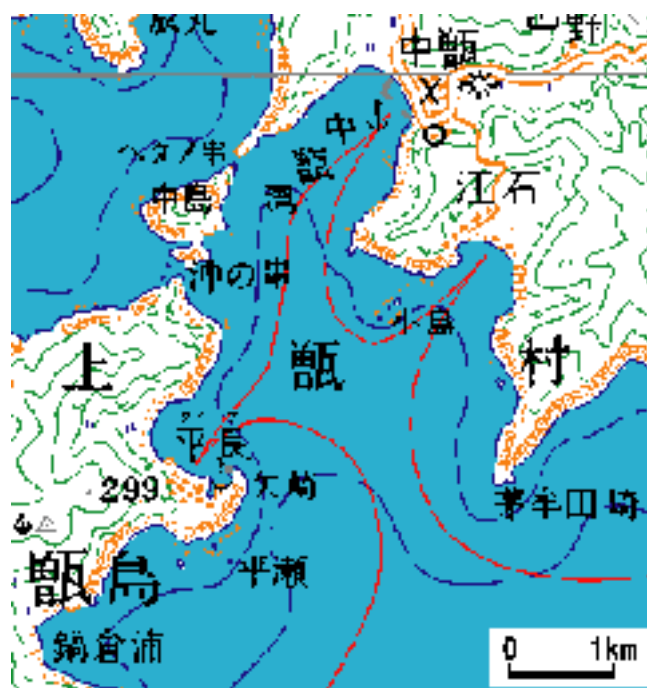
閉鎖度指標：1.20

備考：なし

Location

範囲または位置

鹿児島県薩摩郡上甕村茅牟田崎と同村矢崎を結ぶ線、同村中甕島北端と同村中島南西端を結ぶ線、同島北端と薩摩郡上甕村ヘタノ串を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

東シナ海に浮かぶ甑列島の上甑島にある、湾口を南西方向の中甑島に向かって開いている湾で、島の周囲を黒潮が北上しています。気候は、太平洋岸気候区に属し一年中温暖な海域です。

汚濁要因となる流入河川や大きな集落もなく、水質は良好な状況を保っています。

自然

海に囲まれた甑島は、東シナ海の暖流の影響を受け温暖な気候で、島中が緑に覆われています。初夏には中甑湾背後では鹿の子ゆりが咲き乱れます。上甑は世界に名高い鹿の子ゆりの自生地です。

湾内には、フタエグサやテングサの藻場が分布し、湾口南部の小島周辺にはアマクサキリンサイやトサカノリの藻場が分布しています。

湾奥には、海浜公園として整備された大田浜海水浴場があり、湾内を巡る観光遊覧船も運行されています。

その他、上甑島の代表的な景勝地として島の反対側にある長目の浜、貝池があります。長池は島の北西部の山裾が太古からの風波に崩れ落ち、潮風で運ばれて浜を造ったと言われています。貝池には約 30 億年前に出現した原始的な微生物・クロマチウムが生息し、世界でもバルト海沿岸の湖と甑島の 2ヶ所にしか見られない学術的にも貴重なものです。



鹿の子ゆり

文化歴史

1348年（南北朝時代）に湊川の戦いで破れた楠木正成、正行が難を逃れ、中甑や下甑に入り、正行は金吾山の構え中甑で死没したという伝説があります。

湾岸には、甑大明神、甑島神社、蛭子神社の史跡があります。これらの神社は岩を神として拝み、大漁を祈願しております。

産業

中甑はフェリーや高速船が就航する上甑村の玄関口です。

東シナ海の黒潮に囲まれた甑島は古くからブリやカツオ、イワシ等の好漁場として知られるように、水産業は上甑村の基幹産業です。魚種が多く高級魚の宝庫で各方面から注目されるなど海域特性に即した漁港・沿岸・沖合漁場の整備開発を推進しています。鹿児島沿岸における水産物供給基地としての確立を目指し、水揚げされた海産物の加工を工夫し、ウニ、薩摩揚げ、キビナゴなどを作ることで観光事業との関連性を持たせています。

湾内では鹿児島大学水産学部や業者との協力で昭和 23年アコヤ貝の研究に着手し、真珠養殖が始められました。



中甑湾の漁船